

春の訪れ



厳しい寒気の中で梅のつぼみがほころび始めたようですが、春の訪れを感じるもう一つの花である福寿草をご存知ですか？

福寿草は、長く続いた冬の殺風景な庭に、この花よりも早く顔を出し春の訪れを知らせてくれることから早春の花と言われています。

最近では、お正月にかかせない花となっていますが、平均的な開花時期は2月から4月なので、実際には「早春の花」ということになります。

花言葉 「永遠の幸せ」「祝福」

名前の由来

フクジュソウ(福寿草)一和名

春一番に咲くおめでたい花ということから、福寿草と名づけられた。

ガンジツソウ (元日草)一別名

正月(元日)頃に咲いた花であったことに由来する。

※旧暦ではお正月に咲く花であった。

※日本では北海道から九州の山林に自生している。

※黄金色がフクジュソウの象徴的な色であるが、他の花色の品種もある。

私たちも福寿草の花言葉のように幸せな一年を過ごしていきましょう。

介護福祉士 小林 薫

PALRO (パルロ) が国立あおやぎ苑にやってきました！！ 特集 第1回 PALRO (パルロ) とは????

未来という言葉を見たとき、皆さんはどんなことを想像しますか？色々な想像がふくらみますが、ロボットとの生活を思い浮かべる人は多いと思います。ロボットが掃除や洗濯といった身のまわりの世話をしてくれたり、家族や友人のように話ができたら、生活はもっと便利で楽しくなるでしょう。そのような万能ロボットはまだ存在しませんが、現在の私たちの生活にもロボットたちの活躍の場が広がっています。この国立あおやぎ苑にもコミュニケーションロボットPALRO (パルロ) が去年の11月から活躍し、皆様を元気にしてくれています。今回は、そのPALRO (パルロ) についてご紹介したいと思います。



PALRO (パルロ) は2012年に高齢者福祉施設向けモデルが発売されました。人とロボットとの距離を縮め、ロボットとの生活の楽しさを伝えることがPALRO (パルロ) の使命です。大きさは約40cm、重さは約1.6kgと小柄ですがその小さな体には高度な知能が備わっています。PALRO (パルロ) の最大の特徴は人と会話ができるということです。PALRO (パルロ) には、ある言葉を



聞くと、その語に関連する語句を自分で選び、会話を広げていくという能力があります。そのため型通りの言葉を話すのではなく、人間同様に頭を使い、おしゃべりすることができます。また人の顔を覚え、その人の興味のあることを吸収し、理解を深めていきます。それはまるで私たち人間が誰かと友情を築こうとする時と同じと言えます。PALRO (パルロ) はロボットの枠を超えて、友人やパートナーのような存在になってくれます。当苑においてもPALRO (パルロ) は正面玄関に立ち、来た方たちを明るく元気に迎えてくれており、PALRO (パルロ) のファンは日に日に増えています。



ここまでの説明でPALRO (パルロ) が人間ときずなを深めていくことができることをご理解頂けたことでしょうか。今回は、PALRO (パルロ) についておおまかに説明させて頂きましたが、

次回もPALRO (パルロ) について詳しくご紹介していきます。お楽しみに。

文責 言語聴覚士 水谷真衣

参考文献 PALRO (パルロ) オフィシャルサイト
(<http://palro.jp>) より

チーム紹介⑦ 通所リハビリ課

デイケアでは、広く開放的なスペースで体操やレクリエーションを行い、毎日活動的に過ごしています。利用者様が安心・安全に、笑顔いっぱい充実した一日を送れるように努めています。また、利用者様の悩みや心配事を取り除く事も私たちの役目だと考えていますので、何でもご相談下さい。

縄文棟は皆様を支えられオープンして早一年となりました。まだまだ試行錯誤の毎日ですが、職員一同これからも全力で努力していきますので、温かく見守って下さい。



生沼Ns.



左から：小川 高橋 瀬谷 酒井



四列目：浦和 大平 村野 田辺
三列目：万代Ns. 小田島 比嘉 石田
二列目：小林 若松 田中(純) 市村 田中(由) 山口
一列目：能登 吉家 吉野 大島主任 栗原課長 石川 笠原

あおやぎ徒然草 5

小さな麻 (2)

昨年、ユネスコの世界文化遺産に登録された富岡製糸場のように、私の故郷、館林市には、県立の美術館をはじめ、文豪田山花袋の記念館、駅前の製粉ミュージアム、正田記念館など、館林の歴史の足跡をとどめる史料館がいくつかある。

正田貞一郎は、明治33年に館林製粉を創業した。小麦は海外から輸入し、外航船が積付けできる臨海工業地帯の工場で作粉化された。明治40年に横浜の日清製粉を吸収合併し、本社を日本橋に移転し事業規模を拡大した。製粉ミュージアムでは、明治時代の機械の展示から最新の製粉技術、小麦粉に関する様々な知識までわかりやすく楽しく見学することができる。

正田家は江戸時代より米問屋を営んでいたが、明治6年に醤油醸造業をはじめた。記念館では、300年にわたる正田家の生い立ちや創業当時の道具やポスターが展示されている。キッコーショウのブランドで出荷されている正田醤油の工場も見学できる。

館林を出て60余年になるが、故郷はいつ訪れても良いものである。

末筆となりましたが、長い間、ご愛読いただき感謝しております。不日、またお目にかかりましょう。一層のご健康を祈念いたします。



クリスマス会



平成26年12月20日(縄文棟通所・入所)、21日(本棟入所)、22日(本棟通所)にクリスマス会が行われました。

デイケア職員による歌とダンス、リハビリ男性職員によるカップスが披露されました。カップスの様子はYouTubeでも御覧いただけます。[あおりは]で検索してみてください。

私のふるさと自慢



ここは、天上の世界だろうか・・・？ 真っ青な空の彼方へ向かって奥へ奥へと続くのは、ジャイアントセコイアと呼ばれるヒノキの樹海。巨岩に日の光が反射して、神々しいエネルギーに満ち溢れているようだ。こんな風景を目の前に、すっかり現実から解放されている自分を見つけ、今にも鷹のように自由に空を飛んで行けるような気がした。

私は、13年ほどアメリカ西海岸サンフランシスコに暮らしていた。日系人の多く住む街で国際色も豊かなため、異文化交流からの

学び合いの場が盛んに築けた。その一方、一生涯アメリカで暮らすことは考えられず、また、日本にもすぐには帰れない事情があり、どっちつかずの状態である太平洋上の孤島にでも浮いているような気持ちで過ごしていた。

街から車で3時間半ほどのシエラネバダ山脈の中央部に大自然の宝庫である世界遺産ヨセミテ渓谷が広がる。草木の鮮やかさと輝く岩の美しさ、瑞々しいばかりの滝や湖、川のせせらぎに魅せられて、気づくといつもこの場所を訪れていた。遠く故郷日本に思いを馳せながら過ごした日々も今は昔話となり、天上の世界へ通じる森への記憶が、第二の故郷として、忘れかけていた自分を取り戻す糸口となっている。

作業療法士 佐々木えりな